

都小 研会 報

・発行所
・東京都小学校社会科研究会
・東京都世田谷区板上下水1-23-3
・発行人 坂本正彦
・編集人 山田裕

都社研の二十六年度の取り組み方針

東京都小学校社会科研究会会長
世田谷区立経堂小学校校長

坂本正彦



この度、石橋前会長の後を受け都小社研の会長に就任しました坂本正彦です。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度は全国小学校社会科研究協議会東京大会が行われ、全国に東京の理論と実践を提案することができました。今年度は、その成果を全都に広めていくことを課題にしていきます。

今年度は、現行の学習指導要領四年目の年の充実期であると言えます。東京大会の研究主題である「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培

う社会科教育」自ら調べ・考

え・表現しながら社会認識を深

める学習を通して」は、現学

習指導要領の社会科で求められ

ている目標そのものであり、こ

の実践を積み上げていくことで

す。その過程で東京都の社会科

を推進していく教員を増やして

いくことが、十年後の東京大会

に向けた基礎づくりになります。

そこで、次の3つを柱にして

取り組んでいきます。

①東京大会の成果と課題を踏ま

え、東京大会の理論をもとに

実践を積み重ね全都に広める。

②十年後の基礎づくりのため、

地区部長・地区委員会、研究

推進委員会を活性化させ人材

を育成する。

③都社研の役員組織としての地

道な取り組みを着実に行う。

そのために、年三回ある地区部長・地区委員会の内容を充実させます。情報交換だけでなく、研修会を行ったり、都社研の取り組みを紹介したりするなど、来てよかつた、ためになつたと考える会にしていき、参加人数を増やしていきます。

次に、研究推進委員会を活性化させていきます。月一回の都社研の月例会後に研究推進委員会を必ず行います。その際、都社研の部長・副部長はすべて学年担当講師とし各部に所属します。研究推進委員会は、東京大会の課題を踏まえた研究実践を積み、事例を増やしていきます。そのことを通して、人材を育成するとともに、実質的に活動し実践する人を増やしていきます。

さらに、月一回の都社研の役員・部長・副部長が集まる月例会を充実させていきます。部長は、課題となつていていることを提案したり、各部の取り組みを見直し強化したりします。副部長は学年担当校講師として、研究の進捗状況を報告し、研究内容を共有し課題となつていていることなど討議していきます。

このようにして、この一年間取り組んでいきます。

ご勇退役員あいさつ

皆さまに深く感謝いたします

前東京都小学校社会科研究会会長
石橋昌雄
世田谷区立経堂小学校校長

新卒以来、都小社研の先輩方には、社会科の基礎・基本から最新の情報や指導法まで教えていただきました。副会長として3年間、そして平成25年度の全国大会に向けての貴重な2年間の会長をさせていただきました。

思えば、新卒のころは、立川グループで多摩地区の先生たちと、夜遅くまで社会科について論じたり、指導案を練り、研究授業をしたことを覚えております。また、何十年前か前の全国大会を控えた夏季合宿では、榛名の移動教室の施設に泊まり、夜遅くまで都内各区市の先生たちと論議し合ったことを記憶しております。全小社研静岡大会では、都小社研代表として課題提案をさせていただきました。また、全小社研の研究論文集にも投稿させていただきました。

副会長・会長の時期は、ひたすら東京大会を意識し、全体会場と五つの会場がひとつとなりその日に備える体制作りに努

めました。両日とも、一週間前の台風がうそのように晴れ上がり、地震も来ずに無事大会を終了することができました。この間、全体講師の澤井先生、会場校講師の五人の先生、会場校の先生方、講師の先生方、区市町村の研究会の皆様、都や区の教育委員会の皆様、都社研顧問OBの方々には、全国大会に向けて多大なるご支援をいただきました。ありがとうございました。

- ① 公民的資質の基礎の問い直し
 - ② 国民・都道府県民としての意識化
 - ③ 持続可能な産業・環境・文化などの維持発展
 - ④ 自然災害と国土の保全
 - ⑤ 過去に学び次世代を見通した課題の解決
- などが大切だと思います。
- 今後とも都小社研が、全国の社会科研究の先達としての実績を更に積み上げられることを期待すると共に、自分もできることを行っていきたいと思っております。
- 長きにわたるご指導・ご支援ありがとうございました。

あのこと、そして、いよいよ

前東京小学校社会科研究会会長
前板橋区立上板橋第五小学校校長 野津 康弘

都社研で学び、これまでの三度の東京大会を経験することができました。初めは会場校研究主任として、二度目は会場運営委員として、そして昨年度は大会役員として、研究の推進、大会の成功に向け多くの仲間と共に力を尽くすことができました。

社会科の目指すところは変わりませんがよりよい授業づくりへの研究に終わりはありません。

「社会科が好き、楽しい、社会のことをもっと知りたい」と思う子供達や先生方がさらに増えていくようにと願っています。

これまでの社会科を通しての皆さんの出会いに感謝しています。ありがとうございます。

都小社研の更なる発展を

前東京小学校社会科研究会副会長
板橋区立志村小学校校長 山岸 悦子

都小社研では、広報部の仕事に長く携わらせていただき、会報の発行を通して、都小社研の活動や研究理論を皆さんにお伝えしてきました。

昨年度は10年に一度の全小社研東京大会にも関わらせていただき、大変幸せに思っています。

教諭時代、教頭時代の関わりとはまた違った楽しさがありました。久しぶりに若い方々と一緒に社会科を勉強することができ

たくさんの刺激をいただきました。やっぱり、社会科は奥が深く、魅力ある教科です。都小社研で成長させていただいたことに感謝すると共に、都小社研の益々の発展を祈念しております。

東京大会の情熱を授業改善へ

元東京小学校社会科研究会副会長
前江東区立明治小学校校長 神山 安弘

第五十一回全小社研「東京大会」が終了した。都小社研、会場校の教師が全力を傾け、理論構築や授業実践を繰り返し、これからの社会科授業の在り方を探り、その方向を全国に発信した大会であったと思う。

この東京大会を会場校長として経験できたことは、都小社研での最大の思い出となった。若手教師や社会科が不得手な教師など、だれもが実践できる社会科授業、どの子も意欲的に取り組む社会科の創造である。

大会での様々な「学び」、そして「情熱」を社会科の発展に生かしていきたい。長年の都小社研での学びに感謝するとともに益々の発展を祈念しています。

平成二十六年 各部活動計画

庶務部

部長 不破 淳一

東京大会の成果を各地区に浸透させていくために、各地区研究部との連携を一層推進します。また、月例研修会、地区委員会、夏季研修会等の運営の充実に努めます。

○月例研修会(十回)

○地区部長・地区委員会(三回)

○役員・地区部長・地区委員の名簿作成、配布

○夏季研修会(八月)の準備

○箱根合宿(十二月)の運営

○活動反省と次年度計画冊子の作成

○二十七年度総会準備

会計部

部長 中島とし子

平成二十六年年度の予算案が総会において承認されました。

昨年度は東京大会に全国から多くの先生方に参加いただきました。会計部としては、有効な予算の編成と執行に努めました。

今年度は、東京大会で提案した内容を実践の場で広げ深める研究になります。授業を通じた研究の充実に向けて、適切な予算の執行に努めて参りたいと思

渉外部

部長 佐藤 強

渉外部では、毎年、都内各地区の研究動向をまとめた「各地区のすがた」や一年間の研究をまとめた研究紀要の発行、OBとの連携を図っています。また、全小社研と関小社研を担当しています。

*OB名簿の更新・管理

*総会・各種会報等の送付

(OB、都内各区市町村)

*「各地区のすがた」の発行

*「研究紀要第二十五集」の発行

*全小社研理事(部長が担当)

東京理事として理事会出席

*関小社研(都事務局)

理事会出席、会報原稿作成等

*全国大会・年度大会案内の送付

(OB、都内各区市町村)

事業部

部長 嶋田 英樹

今年度の事業部の活動は、夏季見学会が中心となります。授業に役立つ臨地研修を七月下旬に五回実施します。皆様、奮ってご参加ください。

★夏季見学会★

①ガス関連施設見学会

七月二十五日(金)定員三〇名

ガスマニージャム(小平市)

新宿地域冷暖房センター【分散型エネルギーシステム活用事例】(新宿区)

②製紙工場見学会

七月二十八日(月)定員四〇名

王子マテリア(株)江戸川工場

【古紙再生紙】(江戸川区)

雪印メグミルク(株)野田工場

(千葉県野田市)

③石油精製工場見学会

七月二十九日(火)定員六〇名

極東石油(株)千葉工場(千葉)

東京みなと館(江東区)

東京湾クルージング

④製鉄工場見学会

七月三十日(水)定員四〇名

JFEスチール東日本製鉄所

(千葉地区)

JFE環境(株)【リサイクル施設】(千葉市)

⑤酪農・乳業施設見学会

七月三十一(金)定員三五名

デーリランド(酪農教育ファーム認定牧場)ミルクランド

あさぎりフードパーク 乳牛工場見学(静岡県富士宮市)

⑥全小社研京都市大会(十一月六日・七日)大会後に巡検を予定しています。沖縄大会(二月十二日・十三日)大会後の巡検は実施しません。

広報部

部長 山田 裕

本年度は、都小社研会報の第一七七号(都小社研各部活動計画等)、一七八号(京都大会報告等)、一七九号(都小社研研究発表会報告等)を、また、全小社研会報の第九二号と九三号の発行を予定しています。

また、ホームページの内容を充実させ、研究に関わる先生方への情報提供をしてまいりたいと考えています。

全小社研

事務局長 宇田川嘉一

さる六月六日(金)、日本出版クラブ会館で第九六回理事会を開催し、今年度の組織・事業計画・予算等が承認されました。

- 1 平成二十六年役員
会長 坂本 正彦(東京)
副会長 佐藤 繁則(東京)
大宮 英俊(山形)
藤馬 享(神奈川)
島津 健一(石川)
大島 清和(名古屋)
塩見 優(大阪)
中木 啓(広島)
堀内 壽夫(愛媛)
三田井 裕(沖縄)
倉岡 政美(神奈川)
倉島 民雄(東京)

常任理事 月岡 正明(東京)
事務局長 宇田川嘉一(東京)
次長 西脇 裕高(東京)
次岡 孝幸(東京)
赤木 勲(東京)
調研部長 駒野眞理子(東京)
会報部長 山田 裕(東京)
第五十二回全国大会・京都市大会
十一月六日(木)・七日(金)
「子どもがひらく 社会科学習」
平成二十六年度 沖縄大会
二月十二日(木)十三日(金)
『命どう宝』の島から共に未来を拓く子どもを育てる社会科学習」
個人研究論文の募集
締切 二十七年一月三十日
「新学習指導要領の具現化をめざす社会科指導の工夫」
調査・研究・刊行等
会報 九十二号、九十三号
各地域の動向
二十六年度版
研究集録 第五十号
個人会員の募集
大会開催の承認
第六九回 千葉大会(承)
第七十回 大阪大会(承)
第七二回 名古屋大会(承)
四十一年度 宮城大会(変更)

調査研究部

部長 駒野眞理子

一 研究の重点
本年度は、昨年度行われた全小社研東京大会における成果を各地区に還元していくとともに残された課題について研究を進めていくことを研究の重点といたします。研究テーマは引き続き「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う社会科教育」自ら調べ・考え・表現しながら」です。このテーマのもと、各学年部会では、全国大会の成果と課題をもとに学年部会の重点テーマを決定し研究を進めてまいります。また、それぞれの学年部会では、十年後の東京大会に向けて、東京都ならではの教材を開発していくことも研究の重点とします。

二 主な取り組み
① 学年研究部会の充実
本年度、各学年の研究推進委員を新たに各地区より推薦いただき、研究推進委員として会長が委嘱いたしました。また、すべての役員校長が、指導助言校長として各学年部会に所属し研究をサポートしてまいります。毎月の月例研究会の後の研究

推進委員会では、全体会とともに学年研究部会を設け内容の充実を図ってまいります。
② 夏季研修会の実施
各学年研究部会の研究を充実させるとともに、都小社研の実践を広く全都に紹介することを目的として、本年度も夏季研修会を開催いたします。
◇月日 八月二十一日(木)
◇場所 中野区立谷戸小学校
◇内容
(午前)
・全体会・学年別分科会(午後)
・講演
「これからの都小社研の研究に期待すること」
講師 澤井 陽介先生(文部科学省教科調査官)
交流会(分科会)
学習問題作り
話し合いのさせ方
板書の工夫
ノートや作品のまとめ方

③ 研究発表会
本年度の研究のまとめを行います。研究授業のうち、各学年部会が一年間の研究について報告いたします。
◇月日 二月二十七日(金)
◇場所

江戸川区立 清新第三小学校

④ 全国小学校社会科研究協議大会への参加
・京都大会
十一月六日〜七日
課題提案 六年生部会
・沖縄大会
二月十二日〜十三日
課題提案 五年生部会
⑤ 研究紀要授業実践シリーズ
「新しい授業の創造」
第十八集
都小社研の実践を広く各地区に広めていくため、本年度の各学年部会の実践をわかりやすく取り組みやすく紹介していきます。
⑥ 「わたしたちの東京都」の充実
第四学年の副読本である「わたしたちの東京都」の内容の見直しを行い、より活用しやすくしてまいります。東京大会で発表した「東京のまちをぎざぎざした人 後藤新平」の単元を新しく入れ、「染物のまち新宿区〜東京染小紋〜」の内容を増やします。また、教師用の手引きを問題解決学習に合わせたスタイルにしていきます。

③ 研究発表会
本年度の研究のまとめを行います。研究授業のうち、各学年部会が一年間の研究について報告いたします。
◇月日 二月二十七日(金)
◇場所

④ 全国小学校社会科研究協議大会への参加
・京都大会
十一月六日〜七日
課題提案 六年生部会
・沖縄大会
二月十二日〜十三日
課題提案 五年生部会
⑤ 研究紀要授業実践シリーズ
「新しい授業の創造」
第十八集
都小社研の実践を広く各地区に広めていくため、本年度の各学年部会の実践をわかりやすく取り組みやすく紹介していきます。
⑥ 「わたしたちの東京都」の充実
第四学年の副読本である「わたしたちの東京都」の内容の見直しを行い、より活用しやすくしてまいります。東京大会で発表した「東京のまちをぎざぎざした人 後藤新平」の単元を新しく入れ、「染物のまち新宿区〜東京染小紋〜」の内容を増やします。また、教師用の手引きを問題解決学習に合わせたスタイルにしていきます。

平成25年度 収支決算書

都小社研平成26年度組織一覧

1. 収入の部

単位=円

科 目	予算額	決算額	備 考
会 費	1,200,000	1,200,000	
寄 付 金	0	0	
雑 収 入	0	7	預金利子
前年度繰越金	432	432	
そ の 他	0	0	
合 計	1,200,432	1,200,439	

2. 支出の部

単位=円

科 目	予算額	決算額	備 考
研究大会 および 研修会	諸謝金	200,000	30,000 講師謝金
	旅 費	10,000	0
	借料・損料	130,000	83,160 研究会会場借料
	印刷製本費	280,000	601,464 研究報告書
	会 議 費	2,000	0
	消 耗 品	50,000	74,812 ラベル代、封筒代、用紙代
	通信運搬費	12,000	18,120 案内状・通知・会報発送
小 計	684,000	807,556	
研 究 査	諸謝金	30,000	20,000 講師謝金
	旅 費	0	0
	資 料 費	10,000	0
	印刷製本費	130,000	86,900 会報
	賃 金	0	0
	会 議 費	20,000	44,025 浅草公会堂展示ホール使用料
	消耗品費	3,000	24,075 事務用品
通信運搬費	10,000	5,280 資料・通知発送	
小 計	203,000	180,280	
研究用 図 書	図書購入費	0	0
小 計	0	0	
研究成果 刊 行	印刷製本費	300,000	185,270 研究紀要・各地区のすがた
	通信運搬費	13,000	25,360 紀要等発送
	小 計	313,000	210,630
その他の事業費事務局費	432	0	
合 計	1,200,432	1,198,466	

次年度繰越金 1,200,439円 - 1,198,466円 = 1,973円

平成26年度 収支予算(案)

1. 収入の部

単位=円

科 目	予算額	備 考
会 費	1,200,000	
寄 付 金	0	
雑 収 入	0	
前年度繰越金	1,973	
そ の 他	0	
合 計	1,201,973	

2. 支出の部

単位=円

科 目	予算額	備 考
研究大会 および 研修会	諸謝金	120,000 講師謝金
	旅 費	10,000 講師・助言者車代
	借料・損料	130,000 研究会会場借料
	印刷製本費	280,000 会報
	会 議 費	2,000 研究会会議費
	消 耗 品	50,000 封筒代、ラベル代
	通信運搬費	12,000 案内状・通知・会報発送
小 計	604,000	
研 究 査	諸謝金	110,000 講師・助言者謝金
	旅 費	0
	資 料 費	10,000 資料代・作成印刷紙代
	印刷製本費	130,000 各地区のすがた研究紀要
	賃 金	0 資料整理代
	会 議 費	20,000 研究会会議費
	消耗品費	3,000 事務用品
通信運搬費	10,000 資料・委員会通知発送	
小 計	283,000	
研究用 図 書	図書購入費	0
小 計	0	
研究成果 刊 行	印刷製本費	300,000 実践シリーズ
	通信運搬費	13,000 紀要等発送
	小 計	313,000
その他の事業費事務局費	1,973	事務用品
合 計	1,201,973	

1. 役 員

職 名	氏 名	所 属 校
会 長	坂 本 正 彦	世田谷・経堂小
副 会 長	佐 藤 繁 則	江戸川・清新第三小
副 会 長	月 岡 正 明	世田谷・桜町小
副 会 長	齊 藤 涼 子	江戸川・下鎌田西小
会 計 監 査	倉 島 民 雄	板橋・中根橋小
監 事	國 分 重 隆	新宿・鶴巻小
監 事	橋 浦 義 之	中野・啓明小
●再任用役員		
現 役 顧 問	石 橋 昌 雄	板橋・板橋第十小
監 事	喜 多 村 晃	三鷹・第四小
監 事	山 岸 悦 子	板橋・志村小
監 事	平 山 仁 美	足立・本木小

2. 部長・副部長

役 職	氏 名	所 属 校	
庶 務	部 長	不 破 淳 一	小金井・本町小
	副 部 長	増 田 礼 子	板橋・赤塚新町小
	副 部 長	小 堂 十	杉並・久我山小
	副 部 長	増 田 亮	大田・馬込第二小
会 計	部 長	中 島 とし子	品川・清水台小
	副 部 長	亀 山 桂 子	三鷹・第二小
調 査 研 究	部 長	駒 野 眞 理子	葛飾・柴又小
	副 部 長	吉 藤 玲 子	大田・羽田小
	副 部 長	小 瀬 和 彦	武蔵村山・第九小
	副 部 長	和 田 幹 夫	豊島・池袋第三小
	副 部 長	浅 野 正 道	あきる野・草花小
	部 長	嶋 田 英 樹	大田・池上小
事 業	副 部 長	小 林 巧	八王子・第二小
	副 部 長	和 田 敏 郎	江戸川・南小岩小
	副 部 長	吉 村 潔	八王子・第三小
	副 部 長	清 水 一 臣	清瀬・清明小
渉 外	部 長	佐 藤 強	清瀬・芝山小
	副 部 長	田 中 洋 子	八王子・横川小
広 報	副 部 長	小 林 勝 人	葛飾・こすげ小
	副 部 長	岡 部 君 夫	日野・滝合小
	部 長	山 田 裕	練馬・豊玉南小
全 小 社 研	副 部 長	赤 尾 眞 司	練馬・大泉第一小
	副 部 長	杉 渕 尚	中野・西中野小
	情 報 担 当	西 谷 秀 幸	板橋・板橋第八小
	事 務 局 長	宇 田 川 嘉 一	葛飾・上小松小
	次 長	西 脇 裕 高	清瀬・清瀬第八小
次 長	次 岡 孝 幸	中野・谷戸小	
次 長	赤 木 勲	板橋・板橋第九小	

あとがき

平成二十六年都小社研は坂本正彦会長のもと新しい体制が発足しました。坂本会長は、東京大会の理論をもとに実践を積み重ね全都に広めること、地区委員会・研究推進委員会を活性化し、人材を育成することが重要であることを指摘なさっています。昨年度の東京大会の成果とこれまでの諸先輩方の社会科への思いや願いを引継ぎまして、東京都の社会科教育のさらなる充実に向けて、力を尽くしてまいりますと決意を新たにいたしました。

都小社研のホームページ ご活用下さい。

<http://www.geocities.jp/toshaken05/index.html>